

YAZAKI GROUP

会社案内



● 法人・拠点の設立 ● 新製品・技術・サービス ● その他

前 史

- 1924 5月27日 創業社長・矢崎貞美が15歳で長野県諏訪郡中洲村(現:諏訪市中洲)から上京、日本橋「森田商会」入社
- 1929 創業社長・矢崎貞美が個人経営「ミツヤ電線」を創業、「自動車用組電線(以下W/H)」販売開始
- 1938 「合資会社矢崎電線営業部」設立
- 1939 東京都荒川区に「尾久工場」開設、一般電線・W/H生産開始
- 1941 ● 「矢崎電線工業株式会社」設立、「合資会社矢崎電線営業部」吸収合併
- 1943 ● 「鷺津工場(現:牧之原工場 鷺津分工場)」開設
- 1947 ● 東京都港区西新橋に本社事務所開設
- 1948 ● 「島田工場(現:島田製作所)」開設
- 1949 ● 日本初の「自動車用ビニル電線」発売
- 1950 ● 「東洋時計株式会社」から自動車メーター部門を分離、「日本自動車計器株式会社」設立、東京都港区芝浦でメーター生産開始
- 1951 ● 「沼津工場(現:沼津製作所)」開設、東京・大阪・名古屋・仙台・福岡に支店開設
- 1955 ● 業界初の「PVC電線」発売
- 1957 ● 日本初の「回転式溶解炉(トーマス炉)」を「沼津工場」に導入
- 1958 ● 日本初の「パーキングメーター」発売
- 「矢崎健康保険組合」設立
- 1959 ● 「矢崎部品株式会社」設立
- 「日本自動車計器株式会社」を「矢崎計器株式会社」に社名変更
- 「天電工場」開設
- 1960 ● 「御殿場製作所」開設
- 日本初のタコグラフ(運行記録計)「TCO-8」発売
- 器具用電線等が電線として日本初のUL規格認証取得
- 1961 ● 「裾野工場(黄瀬川工場を経て、現:裾野製作所)」開設
- 木製ドラム、ビニルテープの生産と屑線処理開始
- 「矢崎義塾」発足
- 1962 ● 「大浜工場」開設
- 「クリスマス電線セット」米国で発売
- 1963 ● 「浜名製作所」開設
- 「矢崎電線工業株式会社」を「矢崎総業株式会社」に改称、製造部門を「矢崎電線株式会社」として分離設立
- 日本初のLPガスメーター「LP10」発売
- 「全矢崎労働組合」設立
- 玉川大学委託学生制度開始(～1981)
- 1964 ● 「矢崎資源株式会社」設立
- 玉川学園と提携し、通信教育制度「富士高校」設立(～1973)
- 1965 ● 「矢崎工機株式会社」設立
- 1966 ● 産業能率大学の通信教育制度開始
- 1967 ● 「棟原工場(現:ものづくりセンター)」開設
- 「タクシメーター」発売
- 1968 ● 「沼津センター」開設(管理部門を集約)
- 浪速女子短期大学の通信教育制度開始(～1974)
- 1970 ● 吸収冷水機「アロエース」発売
- 1971 ● 「富士工場」開設
- LPガス警報器「アロックス」発売
- 1973 ● 「新見作業所(現:新見工場)」開設
- 「栃木製造所(現:栃木工場)」開設
- 皇太子ご夫妻(現上皇ご夫妻)、一休荘にお立ち寄り
- 1974 ● 創業社長・矢崎貞美急逝(64歳)、矢崎裕彦が社長に就任
- 「浜名製作所」に世界初の太陽熱利用冷暖房給湯システムを備えた「矢崎実験ソーラーハウス」完成
- 電子式タクシメーター「アロフレンド8」発売
- 1976 ● 東京都港区三田に本社移転
- 太陽熱温水器「ゆワイター」発売
- 1977 ● 太陽熱集熱器「ブルーパネル」、「温水焚アロエース」発売
- 国内サマーキャンプ(P.10)初開催
- 1978 ● 5月27日を創業の日に決定
- 「浜松工場」開設
- 1979 ● 「自動車用ジャンクションブロック」生産開始

- 1980 ● 「電洋製造所」開設
- 運行管理システム「YAZACシステム」発売
- 1982 ● 静岡県裾野市に「矢崎技術開発センター(現:技術研究所)」開設
- 「矢崎科学技術振興記念財団」設立
- 豊田工業大学留学制度開始
- 1983 ● ソーラー給湯システム「あっちゅ」発売
- 1984 ● 「自動車用圧縮導体薄肉型低圧電線」生産開始
- 1985 ● 静岡県榛原郡榛原町(現:牧之原市)に「矢崎電子技術センター」開設
- 海外サマーキャンプ(P.10)初開催
- 1986 ● 「大坂製造所(現:大東工場)」開設
- 静電気・電磁波の障害対策品「エースミック」発売
- LPガス総合安全システム「ブルドック」発売
- 1987 ● 日本初のタクシメーター領収書発行機「タクシメーマルチプリンタ」発売
- アナログ電気式の文字板全面透過照明を採用した「コンビネーションメーター」生産開始
- 「自動車用ノンハロゲン難燃ケーブル」生産開始
- 1988 ● サマーキャンプ・イン・ジャパン(P.10)初開催
- 1990 ● マサチューセッツ工科大学留学制度開始(～2005)
- 1991 ● 矢崎裕彦が会長に就任(社長を兼務)
- 沖縄県伊江島に「矢崎休暇村」開設
- 1992 ● 矢崎厚生年金基金制度(現:矢崎企業年金基金)開始
- 1993 ● F.I.A.アドベンチャースクール(P.10)初開催
- 1994 ● 矢崎インターナショナルQCC発表大会初開催
- 1995 ● 世界初の「アナログ虚像表示メーター」生産開始
- 1996 ● 「農業事業」開始
- 静岡県御殿場市に「矢崎富士研修センター」開設
- 1997 ● 「矢崎地球環境憲章」制定
- 1998 ● 静岡県裾野市に「Y-CITY」開設、本社機能を集約
- 「エコロジーケーブル」生産開始
- 1999 ● 業界初のデジタルタコグラフ「DTG 1」発売
- 「鉛フリービニルテープ」、「エコロジーテープ」発売
- ETC車載器「ETC-YT1」発売
- 2000 ● 「保土沢工場(現:裾野製作所 保土沢分工場)」開設
- 矢崎パレンテ 東海社会人サッカーリーグ初優勝
- 2002 ● 矢崎裕彦が会長に専任、矢崎信二が社長に就任
- 2003 ● 業界初のビニル電線・ケーブルの全面鉛フリー化
- 2004 ● 「環境・リサイクル事業」開始
- 「積載重量表示計」発売
- 2006 ● 「Y-CITY」にヤザキケアセンター「紙ふうせん」設立
- 「食品リサイクル事業」開始
- ドライブレコーダー「YAZAC-eye」発売
- 高知県高岡郡梶原町「森林ボランティア協会の森づくり事業」に初参加
- 2008 ● 高知県高岡郡梶原町に第三セクター「ゆずはらベレット株式会社」の木質ベレット工場開設
- 世界初の木質ベレット焚吸収冷水機「バイオアロエース」発売
- 商用車等の運行状況を管理できる「矢崎テレマティクスサービス」開始
- 2009 ● 業界初のLPガス用超音波式ガスメーター「U-Smart」発売
- 2010 ● 東京電力、デンソーと共同開発した「エコキュート・ソーラーヒート」発売
- 「やわらか」電線600Vシリーズ発売
- アース付VVF電線「エフアース」発売
- 2012 ● 「矢崎エナジーシステム株式会社」設立
- 静岡県牧之原市に「ものづくりセンター」開設
- 業界初の「ポータブルLPガス発電システム」発売
- 2014 ● 電気自動車・プラグインハイブリッド車用AC普通充電器「iesta」発売
- 世界初のW/Hで使われる銅資源の「Car to Carリサイクル技術」をトヨタ自動車、豊田通商と共同開発
- 2015 ● ハイブリッドデジタルタコグラフ「DTG7」発売
- 2016 ● 神奈川県海老名市に「東日本物流センター」開設
- デジタルタコグラフ一体型タクシメーター「アロフレンド27」発売
- ASEAN地域において「IoTテレマティクスサービス」を開始
- 2018 ● 「一般財団法人矢崎きずな基金」設立
- 2021 ● 矢崎裕彦が名誉会長に就任
- 2022 ● 社長・矢崎信二急逝(75歳)、矢崎陸が社長に就任
- 2023 ● 東京都港区港南に本社移転

「世界とともにある企業」

「社会から必要とされる企業」

経営基本方針

矢崎グループは社是実現のため、以下の方針に従い活動する。

1. 新しい発想とたゆまぬ努力で企業効率向上をはかり、世界中のお客様に最高の価値を提供する。

2. 法を守り、地域の文化を尊重した企業活動を行い、社会発展に貢献する。

3. 環境／安全を最優先とした企業活動を行い、豊かな未来社会実現に貢献する。

4. オープンでフェアな取引に努め、共存共栄を図る。

5. 人を大切にし、個人／チームワーク能力を最大限引き出せる企業風土を育て、個人の夢に貢献する。

会社概要 (2022年6月20日現在)

社名 矢崎総業株式会社
 設立 1941年10月8日
 代表者 代表取締役社長 矢崎 陸
 所在地 **本社**
 〒108-0075
 東京都港区港南一丁目8番15号Wビル7階
Y-CITY
 〒410-1194
 静岡県裾野市御宿1500番地
 資本金 31億9,150万円
 (矢崎総業(株)は非上場企業です。)

グループ会社 矢崎計器株式会社(1950年設立)
 矢崎部品株式会社(1959年設立)
 矢崎エナジーシステム株式会社^{*1}

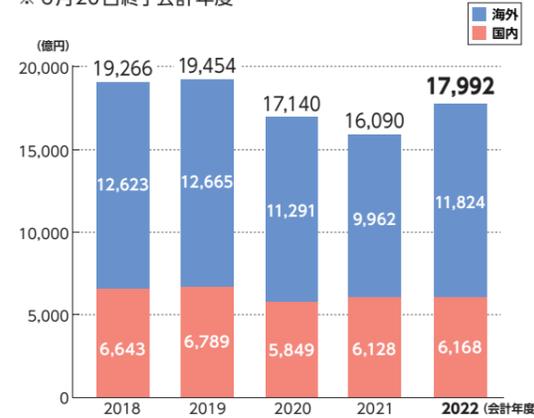
グループ法人^{*2,3} 国内 45 法人
 海外 96 法人
 計 141 法人

グループ従業員^{*3} 国内 17,961 名
 海外 217,593 名
 計 235,554 名

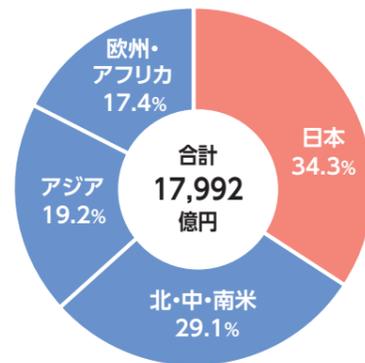
※1 1963年矢崎電線株式会社として設立。2012年商号変更
 ※2 法人数・従業員数は、矢崎総業株式会社と国内外の連結子会社を対象としており、持分法適用子会社、連結除外子会社、関連会社、関係の財団法人は除外しています。
 ※3 従業員数は、正社員、準社員、受入出向者、嘱託、再雇用者を対象としています。なお、受入出向者は、当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含みます。

連結売上高推移

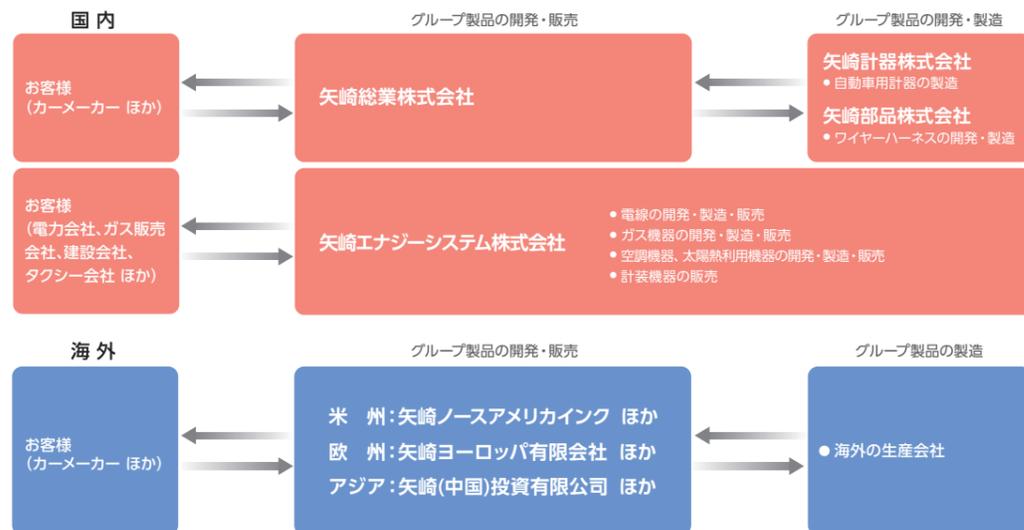
※6月20日終了会計年度



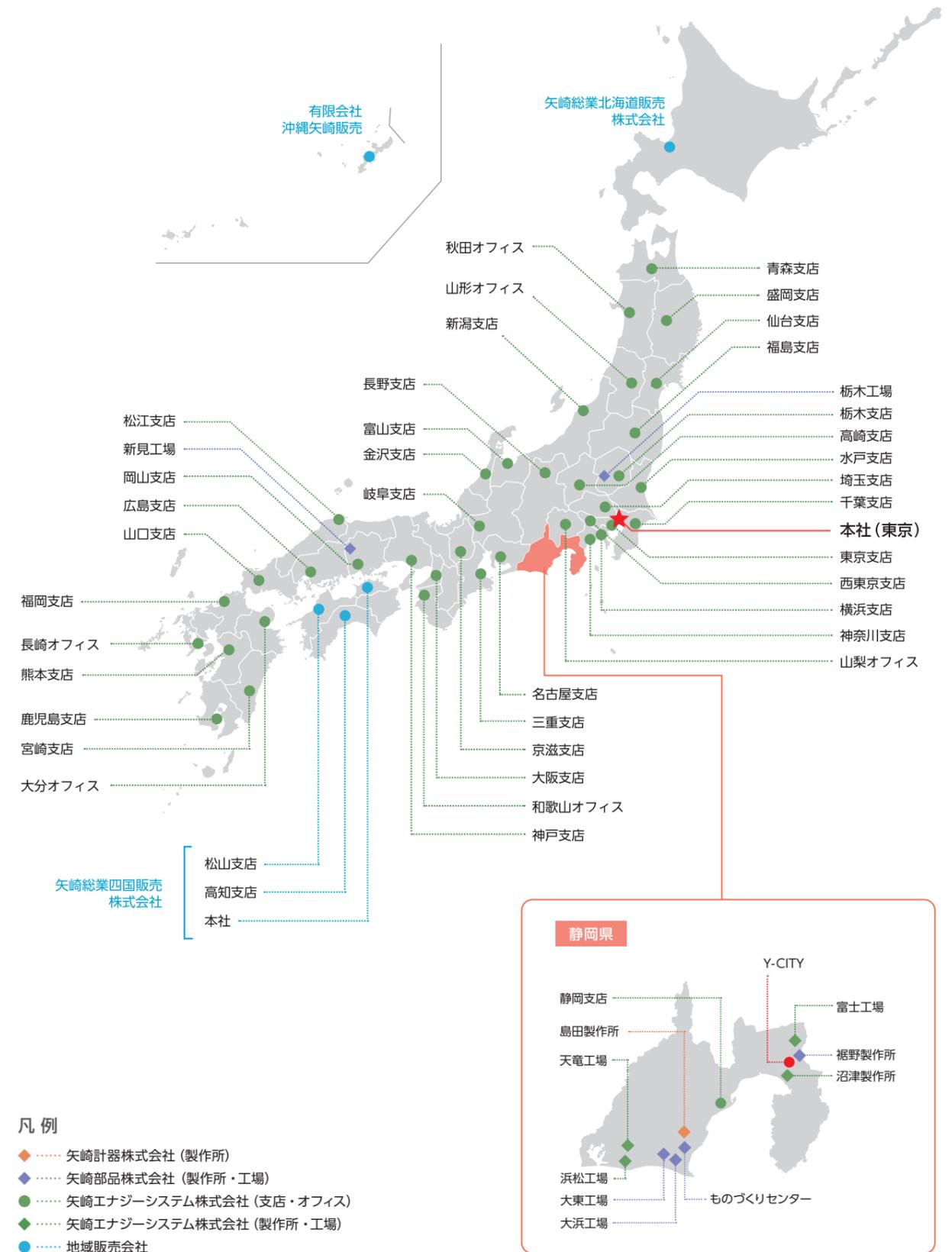
地域別連結売上比率



矢崎グループの開発・製造・販売体制



国内拠点 (2022年6月20日現在)



凡例

- ◆ 矢崎計器株式会社 (製作所)
- ◆ 矢崎部品株式会社 (製作所・工場)
- 矢崎エナジーシステム株式会社 (支店・オフィス)
- ◆ 矢崎エナジーシステム株式会社 (製作所・工場)
- 地域販売会社



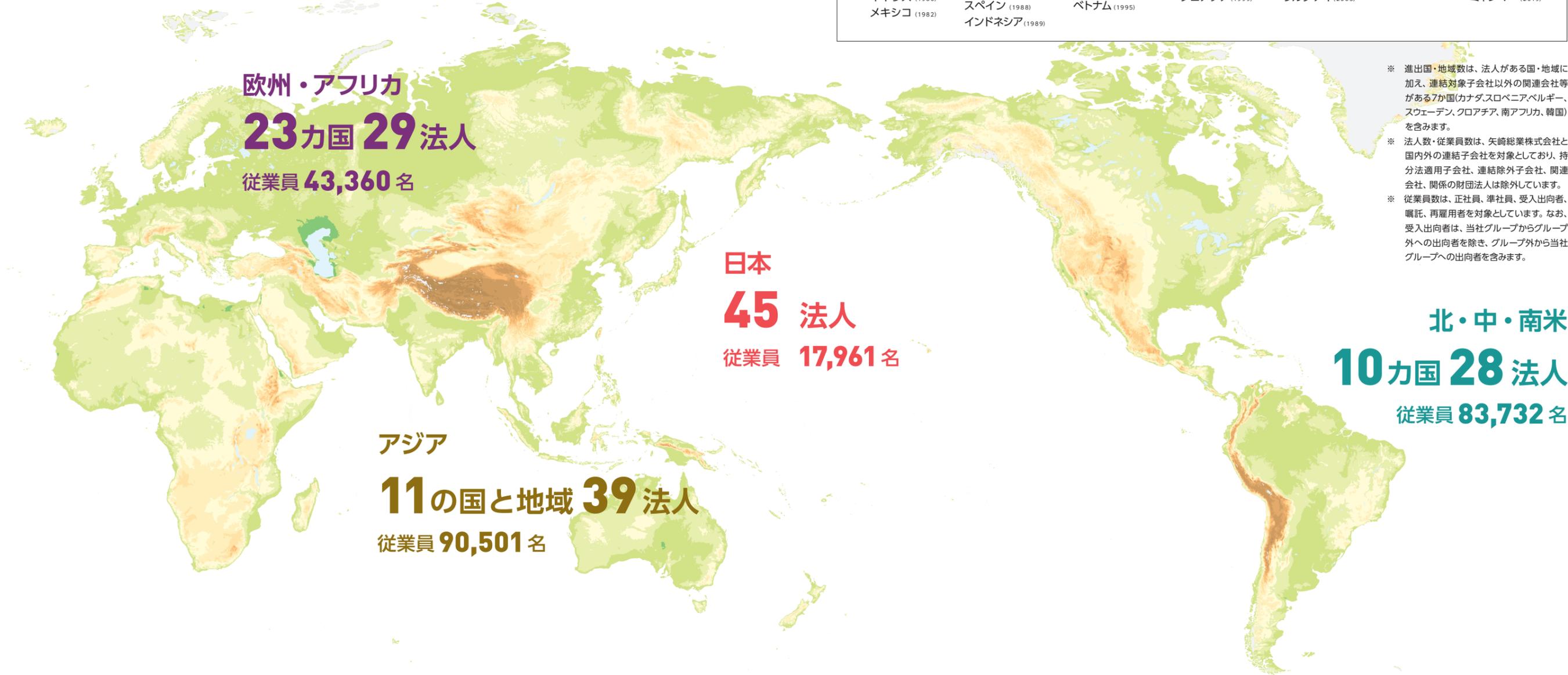
45の国と地域 141法人

従業員 235,554名

海外進出の歩み

表中の進出国のうち、★の国にはすでに拠点はありません。

1960～	1990～	2000～	2010～
タイ(1962)	ポルトガル(1986)	イタリア(1991)	コロンビア(1995)
アメリカ(1964)	★ニュージーランド(1986)	★西サモア(1991) 現:サモア	アルゼンチン(1995)
★オーストラリア(1965)	カナダ(1987)	ベルギー(1991)	インド(1997)
★スイス(1966)	スウェーデン(1988)	スロバキア(1994)	ブラジル(1997)
台湾(1968)	中国(1988)	シンガポール(1995)	★オランダ(1999)
フィリピン(1973)	西ドイツ(1988) 現:ドイツ	トルコ(1995)	フランス(1999)
イギリス(1980)	スペイン(1988)	ベトナム(1995)	クロアチア(1999)
メキシコ(1982)	インドネシア(1989)		
			モロッコ(2000)
			エルサルバドル(2006)
			ブルガリア(2006)
			ポーランド(2011)
			カンボジア(2012)
			ロシア(2012)
			スロベニア(2012)
			パラグアイ(2013)
			セルビア(2016)
			ミャンマー(2019)
			ニカラグア(2001)
			南アフリカ(2006)
			リトアニア(2001)
			チェコ(2001)
			ウクライナ(2002)
			ルーマニア(2003)
			ウルグアイ(2005)
			韓国(2009)
			チュニジア(2009)



※ 進出国・地域数は、法人がある国・地域に加え、連結対象子会社以外の関連会社等がある7か国(カナダ、スロベニア、ベルギー、スウェーデン、クロアチア、南アフリカ、韓国)を含みます。

※ 法人数・従業員数は、矢崎総業株式会社と国内外の連結子会社を対象としており、持分法適用子会社、連結除外子会社、関連会社、関係の財団法人は除外しています。

※ 従業員数は、正社員、準社員、受入出向者、嘱託、再雇用者を対象としています。なお、受入出向者は、当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含みます。

進出している国と地域

- 欧州・アフリカ**
- ベルギー
 - ブルガリア
 - クロアチア
 - チェコ
 - フランス
 - ドイツ
 - イタリア
 - リトアニア
 - モロッコ
 - ポーランド
 - ポルトガル
 - ルーマニア
 - ロシア
 - セルビア
 - スロバキア
 - スロベニア
 - 南アフリカ
 - スペイン
 - スウェーデン
 - チュニジア
 - トルコ
 - ウクライナ
 - イギリス

- アジア**
- カンボジア
 - 中国
 - インド
 - インドネシア
 - 韓国
 - ミャンマー
 - フィリピン
 - シンガポール
 - 台湾
 - タイ
 - ベトナム

- 北・中・南米**
- アルゼンチン
 - ブラジル
 - カナダ
 - コロンビア
 - エルサルバドル
 - メキシコ
 - ニカラグア
 - パラグアイ
 - アメリカ
 - ウルグアイ

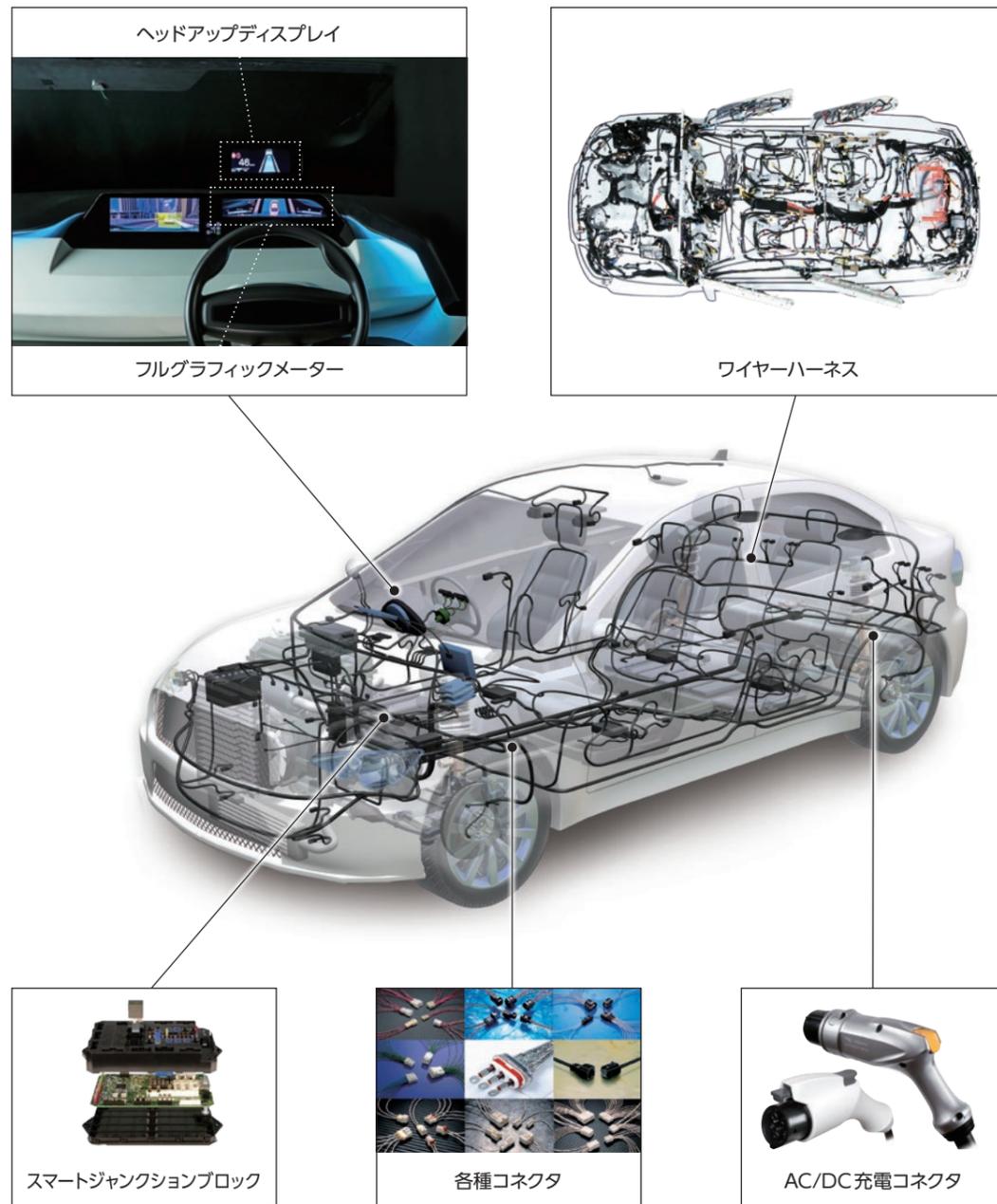
クルマをつなぐ

ワイヤーハーネスを核とした EEDDS 製品

矢崎グループの自動車部品は、EEDDS (詳細は P.8) の考え方に基づき開発されています。矢崎グループは、その核となるワイヤーハーネス (以下 W/H) の製造を 1939 年から開始し、現在では世界トップクラスのシェアを占めています。W/H は、クルマの神経・血管とも例えられる電線の束で、クルマの隅々に張り巡らされています。近年のクルマは、走る、曲がる、止まるといった基本性能だけでなく、安全性や利便性を実現するために、数多くの電気・電子機器が使用されています。W/H はこれらを確実に「つなぐ」役割を担い、電力を供給し、信号と情報を伝送します。さらに電動車両^{*}に対応した高電圧 W/H も、世界に先駆けて実現しました。

その他、人とクルマを「つなぐ」メーターやヘッドアップディスプレイをはじめ、多種多様な製品をシステムとして提供しています。

^{*} 電気自動車 (EV)、ハイブリッド車 (HV)、プラグインハイブリッド車 (PHV)、燃料電池車 (FCV)



CONNECT to the Future 未来のクルマは、EEDDS がつなぐ。

EEDDS — それは、電力と情報を確実に、正確に、必要なところへ伝える技術です。この技術は、クルマの高機能化に伴う高度な電装システムを実現するために、クルマの中の電力、信号を最適に分配しつつ「EEDDS」と、車内外のさまざまな情報を最適な方法でドライバーに伝える「Display (HMI)」とで構成されています。この EEDDS と HMI を融合させた EEDDS は、クルマの中だけではなく、クルマと人、クルマと外もつないでいます。

EEDDS …………… Electrical / Electronic Distribution System

HMI …………… Human Machine Interface

EEDDS …………… Electrical / Electronic Distribution & Display System

電力、信号と情報伝送の最適化を実現する 4 レイヤーネットワークシステム

● 走行系ネットワーク

エンジンやブレーキなどのクルマの基本機能を制御する機器をつなぐ

● 情報系ネットワーク

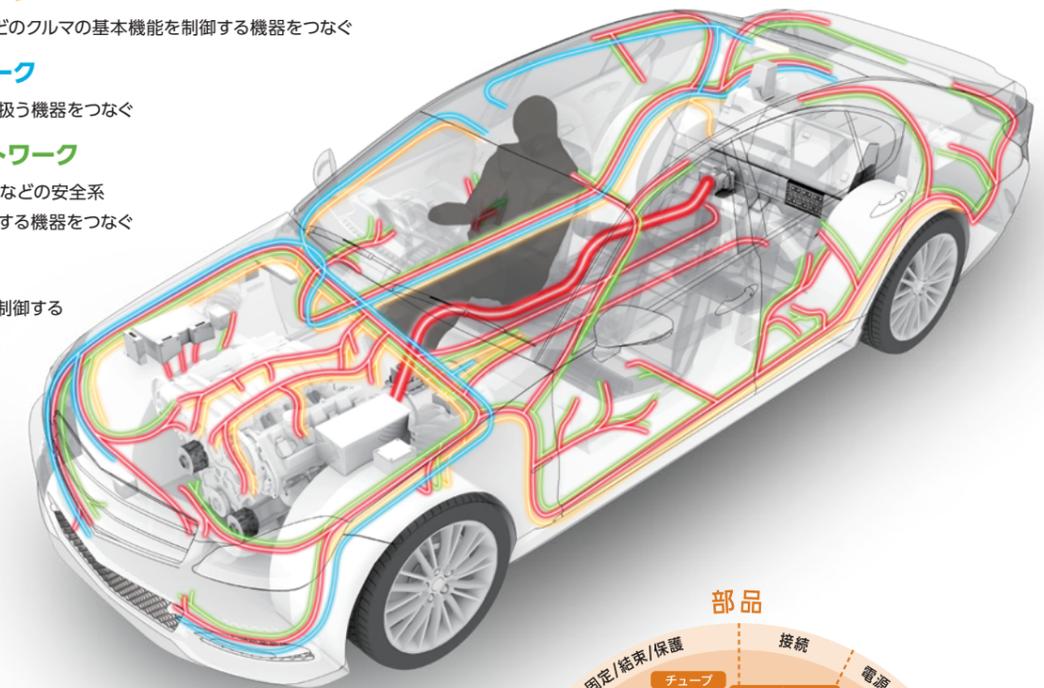
車内外の画像や情報を扱う機器をつなぐ

● ボディー系ネットワーク

ヘッドライトやエアコンなどの安全系および快適環境を提供する機器をつなぐ

● 電源ネットワーク

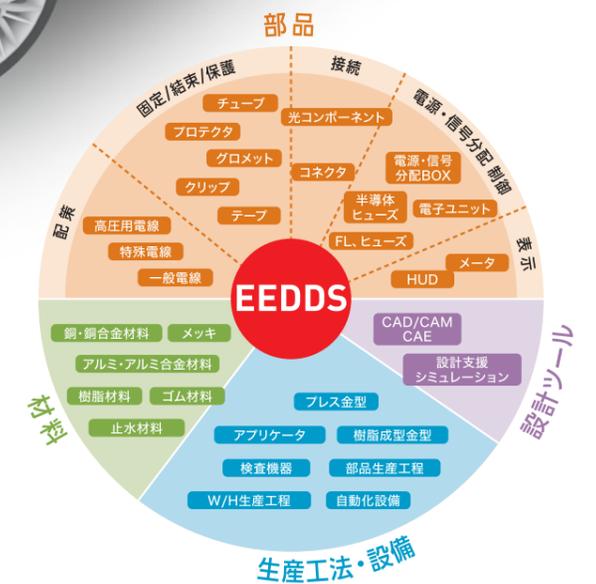
負荷を駆動する電力を制御する機器をつなぐ



材料の開発から製品の製造まで

矢崎グループは、材料の開発から、設計、生産、工法、最終製品の製造まで、すべての工程を自社で行うことで、ワイヤーハーネスの特性に応じた製品開発を実現しています。

新素材の開発により、新しい価値や新製品を生み出し、安全・快適なクルマ社会に貢献します。



くらしをつなぐ

1 電線



熔銅・コンパウンド(原材料)から製品まで一貫生産しています。各種一般電線の他、現場での省施工を考えた「やわらか」電線シリーズ、分岐ケーブル・ユニットケーブル、また環境に配慮したエコロジーケーブルなど、お客様の多様なニーズに合わせた開発設計に力を入れています。

2 ガス機器



ガスメータや警報器、各種供給機器を通して、快適なガスライフを支え、ガス利用者の安全・安心を実現します。
LPWA無線機により、つながるガスメータとして更なる利便性向上をご提案し、全国に配置された営業拠点を通じガス体エネルギー市場全体に対して事業を展開しています。

3 環境システム機器



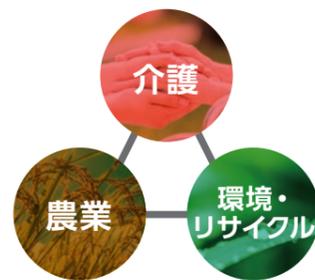
環境・省エネルギー提案を通じて、持続可能な「地球環境と資源節約循環型社会」への貢献をめざし、「空調関連事業」「木質バイオマス事業」「太陽熱関連事業」の3つの事業を展開しています。

4 計装機器



「クルマとインフラをつなぐ」というコンセプトのもと、車社会が抱える「安全・安心」「環境・省エネルギー」「効率・利便」という問題を解決する計装システム製品の提供を通じて、安全で低炭素なスマートコミュニティ社会の実現に貢献しています。

社会をつなぐ



環境負荷の低減や地域社会への貢献と新たな雇用の創出をめざして、新しい事業にチャレンジしています。

5 環境・リサイクル



■紙発泡緩衝材

6 介護



ヤザキケアセンター「紙ふうせん」

- 通所介護
- 訪問介護
- 居宅介護支援
- グループホーム
- 有料老人ホーム
- 訪問看護

7 農業



トマトのビニルハウス栽培

- 地元名産品を使ったお菓子作り
- 農作物生産
- 食品加工



人材育成

F.I.A.アドベンチャースクール

通称「入社前」1年間の海外武者修行。異文化対応力、創造力、自主性、語学力を向上させるために、海外で自分自身と向き合いチャレンジするグローバル人材育成プログラムです。1993年から実施し、これまでに滞在国44カ国で1,300名以上が参加しました。



アフリカに小さな図書館を



南米エクアドルにて

海外トレーニー

最長1年間、海外拠点での現場研修や語学研修を通して、新しい視点やグローバルチームでの業務の進め方、コミュニケーションについて学びます。さまざまな年代とキャリアを持つ従業員が、個別の目標にチャレンジしています。



研修先(アメリカ)でのプレゼンテーション



派遣先事業所のクリスマス会で漢字の名前をプレゼント

矢崎サマーキャンプ

国内サマーキャンプ

従業員の子(小学5・6年生)を対象に、団体生活を通じて、規律とチームワークの大切さを学ぶとともに、自然とのふれ合いを通して環境の大切さを体感することを目的としています。



富士山ハイキング

海外サマーキャンプ

従業員の子(中学2年生)を対象に、矢崎グループの海外拠点のある地域へ赴き、日本と外国との違い(社会・文化・習慣)について正しく理解し、学ぶことを目的としています。



地元の中学校との交流(ベトナム)

サマーキャンプ・イン・ジャパン

海外拠点の従業員の子(小学5・6年生)を日本に招き、日本の歴史や文化・習慣の体験を通じ自国との違いを理解してもらい、参加各国メンバーとの異文化交流により国際的な視野を広めることを目的としています。



東京散策

国内派遣留学制度

実務を2年間経験した若手従業員を対象として、学部・修士・博士課程に社会人派遣留学し、将来の技術者・研究者を育成しています。これまで多くの従業員が学び、先端工学の理論と実践の成果を自らの実務に活かしています。



留学先キャンパス外観



実習風景

国内外MBA派遣留学

国内外のビジネススクールに留学する制度で、経営知識の習得に加え、異文化や習慣の違いに対する対応力を磨きます。異文化の受容、言語の習得、人とのつながりなど、外国人と生活をしながら、業務をこなすためのスキルを、時間をかけて体得します。



海外MBA派遣留学先にて



【お問い合わせ先】

矢崎総業株式会社 広報部

ホームページへはこちらからアクセスできます

2023.2.14 第2版

